opusdei.org

黙想の祈り:復活節 第4主日(B年)

黙想のテーマ:「イエスは善き牧者」「羊のため命を捧げる」「私たちは皆、羊であり 牧者である」。

イエスは善き牧者

羊のため命を捧げる

私たちは皆、羊であり牧者である

復活節初めの数週間の主日には、復 活のキリストのご出現を語る福音が 読まれました。しかし、今日は、善 き牧者としてのイエスに関する話 と、羊を見守る人の特徴についての 説明を聞きます。その配慮と犠牲の 精神、御父との一致と使命遂行のた めの完全な自由…。聴衆に、主を信 頼しその庇護のもとに留まるように と励ましておられるようです。今日 は善き牧者の主日です。教会は、復 活したキリストの群れの中に入り、 主に導いてもらうようにと私たちを 招きます。「神よ(…) キリストの 声に従うわたしたちがあなたの国に 導かれ、聖人とともに喜びを分かつ ことができますように | ™。

イエスは、私たちの現状と私たちが 主の癒しを必要としていることをご 存じです。私たちの罪の傷跡は、落 胆するためではなく、主に対する信 頼をさらに深めるよう導くものなら です。主は、私たちが現実をよく見 て理解し、神を見つめるよう助けて くださいます。イエスは、私たちに 先立って永遠の命への道を歩み、幸せに至る門戸を開き、歩み方を示してくださいました。

復活の光が善き牧者の姿を浮かび上 がらせます。イエスは「羊飼い、わ たしには何も欠けることがない。主 はわたしを青草の原に休ませ、憩い の水のほとりに伴う」(詩篇23・ 1-2) と、言うことができます。死 に打ち勝ち、命を取り戻されたので すから。典礼聖歌が言い表していま す。「黄泉(よみ)に打ち勝った 後、人類の贖い主は天に戻られる。 復活の主は、羊を腕に抱いて戻られ る上で、この羊に、私たちは人間の 姿を、私たち一人ひとりの姿を想い 描きます。

「わたしは良い羊飼いである。良い 羊飼いは羊のために命を捨てる」 (ヨハネ10・11)。イエスは、この

短い言葉で私たちに良き牧者の在り 方を示します。任された人たちを世 話するため、自分自身を捧げること です。それは彼にとって最重要な仕 事なのです。良き牧者と任された羊 の間には、緊密なかかわりがありま す。彼らに囲まれて過ごし、各羊の 鳴き声や歩き方などに精通していま す。良き牧者は、決して羊を見捨て ることはありません。自己の生活の 一部になっているのです。一方、雇 われ人は、彼らを自分のものとして ではなく、かろうじて自分に世話を 任されたものとして見るだけです。

イエスは、羊のために命を与えるのは自由な行為であり、それゆえ愛の行為であることを強調されます。「わたしは命を、再び受けるために、捨てる。それゆえ、父はわたしを愛してくださる。だれもわたしかったさる。とは自分でそれを捨てることもでき、それを再

び受けることもできる。これは、わ たしが父から受けた掟である| (ヨ ハネ10・17-18)。このような牧者に 愛されていると知ることは、何と大 きな希望であることか!主のご受難 が私たちへの愛の極致を表している なら、その復活はこの愛の虜になる ことの価値を示しています。私たち はそこから、新たな生活に踏み出す 力を与えられるのです。聖ホセマリ アは祈りました。「我が神よ、御身 は良き牧者であり、私たちは御身の 羊であることを知っていれば、堅忍 もいたって容易なことです。良き牧 者が御自分の羊一頭一頭のために全 生命を捧げてくださることは明らか だからです 1 1316

キリストの群れの羊として、私たちは命の与え主のところに出入りすることを知っています。日々の祈りの時、日常生活のリズムを整える、幾つかの信心の業を実行する時などです。しかし、第一に諸秘跡に与ると

きです。というのも、これらの秘跡 を通して、神聖な生活が出来るよう になるからです。そうすると、詩篇 作者と共に言うことができます。

「わたしを苦しめるものを前にしても、あなたは私に食卓を整えてくださる。わたしの頭に香油を注ぎ、わたしの杯をあふれさせてくださる。命のある限り、恵みと慈しみはいつもわたしを追う」(詩篇23·5-6)。

良き牧者の主日は、教会に良き牧者の配慮が途絶えることのない記慮が 願いする最良の日です。この配慮が 手を差し出すことは、司祭の特別な 使命です。しかし、ある意味で、 リストのものとなった受洗者全日が、自己の模範と祈り、そして が、他者の牧者になるよう招かれて います。それゆえ、聖ホセマリア は、私たち皆が羊であり牧者である と言っていたのです。

良き牧者になるには、仕え、癒し、 同伴し、耳をかたむけるにあたり、 イエスに倣うことが必要です。要す るに、他者のために自己を差し出す のは無償の行為だということです。 「仲介業者は自分の仕事を行いその 報酬を受け取ります(…)。しか し、仲介者は各人を一致させるため

自己を忘れて尽くし、命を与えま す。これが報酬です。自らの命、彼

は自らの命で払います。疲れと仕事、多くの事柄で支払うのです」
四。他者は、何かを手に入れるための手段でも、素晴らしいと思える目的でもありません。それは、たとえの雇人の振る舞い方です。彼にとって重要なのは羊ではなく、見守りの

良き牧者は、神と同じように無償で 一人ひとりを見守ります。一人ひと

報酬だけです。

りが、神の子どもであり、神の子どもであり、神の子どもであれているとうに招かれていっておりないを知るのです。それからないであるというのきまなにないないないはいるのではないないはいるといるというではいます」(一ペトロ5・けることになります」(一ペトロ5・けることになります」(一ペトロ5・

- [1] ローマミサ典書、復活節第4 主日の集会祈願。
- [2] 聖歌Salve dies。

4)

[3] 聖ホセマリア『鍛』319番。

[4] フランシスコ、説教、2016年12 月9日。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-fukkatsusetsu-shujitsu4/(2025/12/16)